

プラネタリウム通信

(第1號) 昭和15年1月15日

緒 言

“プラネタリウム通信”は全プラネタリウム本質に關し、参考になる總てのとを蒐集し、關係各方面に配布する目的で、大體年4回不定期に刊定して行く豫定であります。

通信記事は器械、建築、經營、演出技術及文獻等に關する新事物に就き廣範圍に亘つて掲載されるので、各プラネタリウム相互間に各種各様の經營上の出來事乃至は經驗に就きニュースの交換が出来る譯であります。

就いてはプラネタリウム當事者各位に於かせられましても、相互の振興の爲め、本計畫を御活用下さる様御額ひ申上げます。 敬白

獨逸エーナ市

カールツアイス社

プラネタリウム部

○ライブチツヒ市プラネタリウムでは、リンネル映寫面は長年使用して行く上に汚れを見るやうになつたので、昨夏リンネル張りをツアイス社の新方法によつて新しく掃除が行はれ白色に塗り替られた。又同館では定期的に演出を行ふやうになつた。

○ミラノ市新プラネタリウムでの演出

ミラノ市日刊新聞「コリエレグラセラ」に依れば、1939年秋、冬期間（平日夜9時、日曜午後4時）次のやうな特別演出が行はれた。

遊星「火星」、天に關する傳説、プラネタリウムの機能、各異なれる天體下に於いて、將來の北極星、星の都、蒼空行脚、地球の起源、澄明なる丸天井より天の深淵へ、太陽の一族、原子の世界より星の世界へ、天の都市、ダンテと星空。

○ビツパীগ市にプラネタリウム新設

北米ペンシルバニヤ洲ビツパীগ市に於いて1939年10月24日通俗科學館と關聯してパールプラネタリウムの開館祝賀式が壯大に開催された。

このプラネタリウムは100萬弗の經費を以つて、有名な米國豪商故小ヘンリーパール氏の寄附を財源として建設されたもので、北米中人口67萬の比較的小都市に營造される事は一般の注目に値する。

プラネタリウム室以外に記念碑様式の建築内に、觀測用天文臺、通俗科學講演用大映寫室、讀書室及天文、物理、地質等及其他分り易い參考資料を多數陳列せる廊下あり。

プラネタリウム丸天井は内徑20米にて、費府、紐育等の如き映寫及音響學上

優秀な性能を持つ、無数に穴の明いた鉄板から出来てゐる。そして、機械本体はレール上を平働式にて移動さすのと異なり、モータの働きで床下に沈下させる仕組になつて居る。又この機械には有名な太陽系投影器が装備されてゐる。

尚、今日までフィラデルフィヤ市フランクリン・インスティテュート内プラネタリウムの館長であつたジェームス・ストクレイ氏がピ市天象館々長に就任した。

月曜—金曜日には3回、土、日曜、祭日には4回プラネタリウム演出が行はれる。ピ市プラネタリウムは世界で27番目、アメリカ本土では5番目である。

○維納に於ける小學生のための演出

維納市學務委員カール・スプロングル氏に同市プラネタリウムを教材として先づ市内小學校のため演出開始する様委託した。

其他のニュース：

○恒星天に日、月を調整する方法

○北斗より北極星を見出し誤らざる様注意

○熱帯地方及兩極圏内で太陽運行演出に異國情緒豊かな風景の幻燈寫眞

セイロン島海岸の椰子森、トリニダツドの竹叢林、マデイラのバナナ樹、マデイラの羊齒樹、砂漠の隊商、諸威の峽江、歐洲最北岬(ノールドカاپ)の眞夜中、グリーンランドのエスキモー人移住、グリーンランドの氷河、ニュージーランドの山嶽と氷。

正 誤 一 束

本誌 227 附録第 232 頁、下から 8 行目。“東方”極大離角は“西方”の誤り。

〃 228 〃 第 237 頁、左より 2 行目。“商天を”は“南天を”の誤り。

〃 230 本文第 232 頁、第 17 行。“1929 年 12 月”は“1939 年 12 月”の誤り。

會員各位より“天界”の原稿を歓迎す

投稿規定は

1. ひだり横書きとすること。
2. 本誌 1 ページは、35 字づめ、35 行であるから、適當なる原稿用紙を用ゐ、なるべく編輯に便利なるやうに、書くこと。
3. 別刷を入用とする人は、あらかじめ其の部數を、編輯係に申し込むこと。但し、之れは、實費を本會會計へ申し受けます。
4. 原稿ノ切は毎月末。
5. 本誌の編輯事務所は、京都市上京區平野宮北町 52 山本方。